

日 薬 定 例 記 者 会 見 要 旨

日 時：令和4年1月6日（木）15：30～16：10

場 所：日本薬剤師会第二会議室

出 席 者：山本会長、安部副会長、磯部専務理事

提出資料：

- 1-1. オミクロン株の感染拡大に備えた対応について（厚生労働大臣による協力要請）
（令和3年12月28日付 日薬業発第368号）
- 1-2. オミクロン株の感染流行に備えた地域の医療機関等による自宅療養者支援等の強化について
（令和4年1月6日付 日薬業発第370号）
2. 令和4年度政府予算案について
（令和4年度薬剤師・薬局関係予算案の概要の抜粋資料 厚生労働省医薬・生活衛生局総務課、
令和4年度予算案の概要の抜粋資料 厚生労働省医政局）
3. 薬剤師から一般の方々に向けた新型コロナウイルスワクチンに関するFAQ
（令和3年12月27日付 日薬情発第180号）

○次期会長選について

山本会長より資料説明の前に掲題の件について話があった。主な内容は以下の通り。

3月に実施する次期会長候補者選挙への出馬を表明する。

現在、開局薬剤師として4期目となるが、5期目では次の薬機法改正等に向けた土台作りを目指し、安定した状態で次の世代に繋げたいと考える。

1-1. オミクロン株の感染拡大に備えた対応について（厚生労働大臣による協力要請）

山本会長より掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

令和3年12月28日、オミクロン株が感染性・伝播性が高い可能性を踏まえ、厚生労働大臣より直接、日本医師会、日本薬剤師会及び日本看護協会に対し、自宅療養者への支援、経口薬による治療の確保、検査体制の確保等について、次の感染拡大に向けた体制強化の要請を受けたことを報告する。

モルヌピラビルの提供体制ならびに都道府県が行う無料検査事業への対応など、あらためて地域の実情に応じて関係者と連携の上、医療提供体制、医薬品提供体制の強化のため、引き続きご高配を賜りますようお願い申し上げます。

なお、無料検査事業については、令和3年12月27日付けの日薬業発第362号にて各地域に一定程度の薬局が検査事業者となるべく早急な対応をお願い申し上げたが、薬局の構造等により検査事業の実施に十分な感染対策を図れない薬局があることを踏まえ、地域住民が安心して検査の機会を得ることができるよう、医療用抗原定性検査キットの販売については全ての薬局にご協力いただけるよう、重ねてお願い申し上げます。

1-2. オミクロン株の感染流行に備えた地域の医療機関等による自宅療養者支援等の強化について

山本会長より掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

国内におけるオミクロン株の感染拡大に備えた対応については、令和3年12月28日付けの日薬業発第368号にてお願い申し上げたが、オミクロン株の感染流行に備えた地域の医療機関等による自宅療養者支援等の強化について、同日付で都道府県薬剤師会宛に事務連絡を発出したことを報告する。

モルヌピラビルの提供体制については、1月13日までに処方可能な登録医療機関のリスト化が都道府県等に求められているほか、同日までにラゲブリオ登録センターに登録された対応薬局等の数について公表を予定している。

2. 令和4年度政府予算案について

磯部専務理事より掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

- ・令和4年度の薬剤師・薬局関係予算案（厚生労働省医薬・生活衛生局総務課）

令和4年度の薬剤師・薬局関係予算案（厚生労働省医薬・生活衛生局）は、電子処方箋の導入に向けた医療機関・薬局のシステム整備の支援として、「医療情報化支援基金による支援」と「令和3年度第一次補正予算」の予算を合わせて運用されるとのことである。

その他では、「データヘルス改革を見据えた次世代型お薬手帳の活用の推進」、「薬剤師の資質向上等に資する研修事業の実施」、「卒後臨床研修の効果的な実施のための調査検討事業」、「薬剤師確保のための調査検討事業」、「一般用医薬品適正使用推進のための研修」、「医薬品適正使用の普及啓発」、「薬局医療安全対策の推進」、「薬剤師養成問題の検討」、「国家資格のオンライン申請調査研究」、「免許登録管理システム」の整備に関する予算や、他局関係では、「医薬分業推進支援センターの施設・設備整備費（健康局）、「医療介護総合確保基金による医療・介護提供体制改革」（医政局）、「病院薬剤師を活用した医師の働き方改革推進事業」（医政局）、「レセプトを活用した医療扶助適正化事業」（社会・援護局）等の予算が計上されている。これらの事業等については、必要があれば検討を行い対応していきたい。

- ・令和4年度 予算案の概要（厚生労働省医政局）

令和4年度予算案（厚生労働省医政局）は、「医薬品安定供給支援事業」として、抗菌薬などの国外依存度の高い原薬原料等の備蓄の積み増し等を支援し、国内における医薬品安定供給体制の強化等に関する予算が計上されている。

また、令和3年度補正予算では、「新型コロナウイルス感染症対応看護職員等の人材確保」、「医療資格者等の労災給付の上乗せを行う医療機関等への補助」、「医療用物資等の確保」、「医薬品・医療機器等のサプライチェーン実態把握等のための調査事業」の予算が計上されている。これらの事業等については、必要があれば検討を行い対応していきたい。

3. 薬剤師から一般の方々に向けた新型コロナウイルスワクチンに関するFAQ

磯部専務理事より掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

本会では、「新型コロナウイルスワクチンに関するFAQ」を12月27日付で更新したことを報告する。

主な変更点として、3回目の接種に関する情報を追加したほか、アストラゼネカ社のワクチン

副反応情報等を更新した。

記者からの質問は以下の通り。

記者：次期会長選の立候補表明で、「安定した状態で次の世代に繋げる」と話されたことについて、具体的に伺いたい。

山本会長：任期が2022年から2024年までになることから、地域包括ケアシステムのスタートの年とされる2025年に向けた準備が必要である。また、政府の規制改革推進会議などで薬剤師に関わる項目が取り上げられているため、次の薬機法改正に向けた土台作りも進めたい。

記者：令和3年12月24日に、文部科学省の「薬学系人材養成の在り方に関する検討会」が開催された。当該検討会の議論について、日薬としての受け止めに伺いたい。

安部副会長：いかに質の良い薬学教育を行うか、本会でも議論を行う予定である。

記者：次期会長選の立候補表明について、任期の2年間で振り返ってやり残したこと等があれば伺いたい。

山本会長：医薬分業元年となる1974年の前年に薬剤師になり、東京都薬剤師会や日本薬剤師会で分業を進めていく側にいたが、当時の先輩方が目指した状態にできたかということ、必ずしもすべてが進んでいるわけではない。今後、所期の目標に向かって進めるよう努力したい。

次回の定例記者会見は、令和4年1月19日（水）、14：30～15：30

以上